

平成21年度 学校評価自己評価書

愛知教育大学附属岡崎小学校

I 総括

(1) 教育目標

- ①生活のなかから問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成。
- ②経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成。
- ③友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成。

(2) 中長期経営目標

- ・自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う。
- ・児童の多様な能力に対応した教育を行うとともに、個性を尊重しつつ学力を伸ばす。
- ・大学と連携し、子ども一人一人の個性と生活体験を大切にした「生活教育」についての教育研究を行う。
- ・安全で安心な教育環境を整備し、安全・健康教育を進める。
- ・国立大学法人附属学校として、大学と連携した学校マネジメントを推進する。
- ・機能的な学校運営を行うとともに、教職員の職能向上に努める。
- ・社会と世界に開かれた学校づくりを進める。
- ・家庭、地域に学校の様子や状況について積極的に情報提供し、学校評価を学校運営に生かす。

(3) 短期経営目標（本年度の重点目標）

①学習指導

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・やる気と自覚、共感能力を大切にし、解決したい問題に対する問題解決力を育成する。
- ・児童英語の充実・改善を図り、積極的にコミュニケーションしようとする態度を育成するとともに、言語に関する能力や国際感覚の基盤を培う。

②研究

- ・創造的、協同的な問題解決学習を展開するなかで、ねばり強く創造的に解決する子どもの姿をめざす。特に、本年度は、1時間の授業における教師のはたらきかけのあり方を探る。

③教育実習

- ・教育実習生に対し、教育活動の基本的なあり方を具体的な実践を通して指導する。

④学校運営

- ・学校評価をもとにした改善点を点検しながら、よりよい学校運営をめざす。
- ・行事の精選・スリム化を図り、授業時間を確保する。

- ・勤務時間の短縮及び業務の精選・効率化を図り、教職員の健康維持を図るとともに、タイムマネジメントの意識を高める。

II 自己評価の実施体制

学校が経営目標を立て、具体的な実践を行い、その結果を次年度の学校経営方針に反映し、教育活動を改善するというPDC Aのサイクルに基づく学校評価を実施する。この学校評価を継続的に改善していくためには、目標を適切に改善していくことが必要である。そのために、本校では学校全体の教育目標とともに、めざすべき成果やそれに向けた取組に関する中長期と単年度の目標を、昨年度より具体的に設定している。

本年度実施した評価項目については、短期経営目標（本年度の重点目標）をさらに具体化して設定したものである。特に本年度は、昨年度の学校評価に基づく教育活動の見直しと、新指導要領に基づく新教育課程の実施、さらに新研究の立ち上げをした年である。こうした改革を自己評価することと、昨年度実施の評価項目を生かしながら、本年度の教育活動について、昨年度より改善が進んだかを評価する項目設定を心がけた。

アンケート調査の実施については、①保護者 ②児童 ③教師を対象に行った。設問は20問とし、個人情報保護の観点から匿名性の担保に配慮した。

実施時期 7月6日（月）～10日（金）

III 評価結果（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計の割合で判断した。）

100%～80%・・・A	80%～70%以上・・・B
70%～50%・・・C	50%未満・・・D

「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計の割合で判断した理由は、以下の2点である。

- ①「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりできていない」「できていない」のいずれかを選択する形で行っている。学校運営において、「よくあてはまる」の割合の多いことが学校運営がうまく行われていることを示すが、現段階では学校運営がおおむね良好に進んでいるかどうかを見極めるとともに、学校として対処・改善の必要が急務となる、「あまりできていない」「できていない」の割合の合計が多いものを明確にしたいという考えである。
- ②昨年度との傾向の違いを比較をするためにも、この方法をとった。

IV 考察

（1）全体評価

昨年度に引き続き、設問1「附属小学校は誇れる学校である」に対して、保護者・児童・教師の3者ともに、90%を超えるA評価であったことや、そのあとに続く設問2「附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している」、設問3「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」においても同様の数値をとっていることは喜ばしいことである。さらに、本校の特徴である「授業づくりの工夫」において、93%以上の評価を

得ていることは誇れることであろう。20 項目の設問に対しての評価で、3 者ともに、A 評価が多く見られることは、学校運営が概ね良好に行われていると考えられる。

また、昨年度改善策を立て、目標値を設定した項目もおおむね改善される方向にある。以下に示すものが、昨年度学校評価の改善項目に今年の結果を加えたものである。

<昨年度改善項目としてあげた設問の結果と自己評価書で立てた目標値、今年度の結果>

授業づくりを見直すとともに、基礎的な知識や技能の習得を図る。	
設 問 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能が身についている。 教師： 昨年度D 38.9 % → 目標値C 60 % → 今年度C 59.1% 保護者：昨年度D 42.9 % → 目標値C 60 % → 今年度C 67.8% ・コンピュータの使い方をていねいに教えてくれる。 教師： 昨年度D 16.7 % → 目標値C 50 % → 今年度D 9.1% 〔 保護者：昨年度D 36.8 % → 目標値C 50 % → 今年度D 38.0% 〕 〔 児童： 昨年度D 36.4 % → 目標値C 50 % → 今年度D 43.7% 〕

子どもたちがルールやマナーを守り安全で、気持ちのよい生活環境を整える。	
設 問 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生活しやすいように、教室環境を整えられている。 教師： 昨年度B 77.8 % → 目標値A 80.0 % 保護者：昨年度C 64.4 % → 目標値B 75.0 % 児童： 昨年度C 63.8 % → 目標値B 75.0 % 設問 13 社会のルールやマナーについてよく指導している。 保護者：昨年度B 76.6 % → 目標値A 80.0 % 設問 19 子どもの健康面に配慮している。 保護者：昨年度B 86.6 % → 目標値A 90.0 % 児童： 昨年度B 71.5 % → 目標値A 80.0 % <p>※この項目については、今年度設問を具体化し調査したので、数値の比較はしない。</p>

家庭、地域に学校の様子や状況について積極的に情報提供していく。	
設 問 項 目	<ul style="list-style-type: none"> 設問 11 学級だよりなどで校内のできごとをよく知らせしてくれる。 教師： 昨年度C 61.1 % → 目標値B 70 % → 今年度B 77.3% 保護者：昨年度B 77.7 % → 目標値A 80 % → 今年度A 85.4% 児童： 昨年度B 77.9 % → 目標値A 80 % → 今年度A 89.9% 設問 14 保護者の意見や要望をよく聞き、改善努力をしている。。 保護者：昨年度B 77.5 % → 目標値A 85.0 %

この表より、どの項目も昨年度より改善されたことが読み取れる。

こうした結果をふまえ、本年度改善を要すると考える点は、学習面における「基礎・基本の定着」と「コンピュータの活用」、生活面における「基本的な生活習慣」と「規範意識」、さらに安全面からの「学校設備・学校施設の改善」である。

学習面においては、「あおいタイム（計算ドリル等基礎基本の習熟を図る時間）」の新設と授業改善により、昨年度より飛躍的に数値が上昇している。この項目については、昨年度具体的に目標値まで設定した改善項目である。

昨年度教師：D 38.9 %→目標値C 60 %設定→今年度C 59.1 % おおむね目標達成
昨年度保護者：D 42.9 %→目標値C 60 %設定→今年度C 67.8 % 目標達成

しかし、教師の意識としても依然 59.1 %であり、まだまだ十分でない自己評価をしていることから、改善の余地が残されているといえる。

また、保護者の数値も 67.8 %と、昨年度に比べ大幅に改善されているが、1学期における評価であり、成果が見えにくいことや学校側の努力が伝わりきっていないことも考えられる。

1学期に行われた全国学力調査では、A問題（基礎・基本力）やB問題（活用力）で高い正答率をあげていることや、昨年度よりさらに得点率が向上したことを知らせたり、学校公開日等での参観案内にあおいタイムの公開を示したりすることにより、学校の取り組みを理解していただく必要がある。

また、「コンピュータの活用」においては、昨年度も改善項目として位置づけたにもかかわらず、残念ながらよい結果は得られていない。改善策を見直す必要がある。

生活面における「基本的な生活習慣」と「規範意識」については、子どもの意識と教師・保護者（大人）の意識に差が生じている。子どもはよくできている意識をもっているのに対し、特に保護者の意識との差が顕著である。躰として行うべきこともあり、今後は、この結果を示しながら、学校と家庭の両方で声をかけていく必要がある。

安全面における「学校設備・学校施設の改善」については、教師よりも保護者・子どもの評価が低く、改善が求められていることが読み取れる。くすのきアリーナ竣工は、保護者はもちろん、子どもが一番喜び、学校の誇りとなった。また、教育相談室の開設により、不登校であった子どもの登校日が増加し、保護者の相談予約が1ヶ月先までいっぱいであることなど、たいへん教育効果を高めた事例もある。しかし、1棟をはじめ様々な施設・設備が老朽化している点や、ICT機器が公立校でどんどん導入されているなかで、情報化社会に対応する教育環境の整備は遅れている。安全性と先進性の観点で施設・設備の改善が必要であることを大学に理解してもらいながら改善要求をしていきたい。

（2）教師による自己評価

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

設問1 附属小学校は、誇れる学校である。

→ 90.9 %

- 設問 2 附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している。
→ 100 %
- 設問 3 子どもが学校へ来るのを楽しみにしている学校である。→ 100 %
- 設問 4 子どもが楽しく学ぶことのできる授業づくりをしている。→ 95.5 %
- 設問 6 朝の会のスピーチによって、子どもたちに「聞く・話す」力が育っている。
→ 90.9 %
- 設問 13 子どもの病気やけがなど、健康・安全面に配慮するとともに、常に細心の注意をはらっている。
→ 90.9 %

この結果から、附属小学校の職員は、自校の教育目標を理解し、その達成に向けて日々教育活動に取り組んでいることがわかる。特に授業づくりと健康・安全面への意識と自覚が高いことは誇れることである。また、子どもの自主性や主体性を育てているから、楽しい学校生活を送ることができていると考える。

【C・Dと自己評価した項目】

- 設問 7 あおいタイムや授業によって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っている。
→ D 59.1 %
- 設問 10 コンピュータの使い方をていねいに指導している。→ D 9.1 %
- 設問 12 配膳、会食、片づけを通して、給食指導をていねいに行っている。
→ C 63.6 %
- 設問 14 子どもの病気やけがなど、健康・安全面に配慮するとともに、常に細心の注意をはらっている。
→ C 59.1 %
- 設問 19 附属小学校は、子どもの命や安全を守るため常に危機管理意識をもって指導している。
→ C 68.2 %

コンピュータの利用については、週1時間各学級に割り当てを決めているが、利用状況は少ないのが現状である。1学期には研究会があることから、学級によっては利用する時間がもてなかったところもあろう。2学期以降の授業で対応していく必要がある。

(3) 児童による授業評価・満足度調査

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

- 設問 1 附属小学校は、じまんでできる大好きな学校である。→ A 90.2 %
- 設問 2 自分で考え、進んで学習や仕事に取り組んでいる。→ A 90.6 %
- 設問 3 附属小学校は楽しい学校である。→ A 95.0 %
- 設問 4 毎日の授業は楽しい。→ A 93.3 %
- 設問 5 先生は、話をよく聞いてくれたり日記を読んでもらったりして自分のことを大切にしてくれる。
→ A 91.3 %
- 設問 6 朝のスピーチで、上手に話をしたり、友だちの話をよく聞くことができよ

うになってきた。	→A 90.4 %
設問 14 あいさつ、時間を守る、物を大切にすることができるようになった。	→A 90.6 %
設問 15 きまりや約束を守って、友だちと協力して学校生活を送っている。	→A 91.1 %

子どもたちの多くが、附属小学校を誇りにするとともに、学校へ行くことや授業を楽しみにしていることが読み取れる。また、生活面での設問 14 や 15 について自己評価は高い。大人の評価との違いがある点は、具体的に何を改善するとよいかを示したり気づかせたりし、できたところで認めていくことを積み重ねていく必要がある。

【C・Dと評価した項目】

設問 10 コンピュータの使い方をていねいに指導している。	→D 43.7 %
設問 17 学校や教室のなかは、いつもきれいになっていて生活しやすい。	→C 68.2 %

コンピュータ利用については、利用が十分されていないために数人であった学級がある。利用の機会とていねいな指導が今後必要である。また、設問 17 は、子どもたちが自信をもって「満足できる環境」とまでなっていない。

(4) 保護者による満足度調査

【Aのなかでも評価の割合が90%以上だった項目】

設問 1 附属小学校は、誇れる学校である。	→A 94.2 %
設問 2 附属小学校は、子どもの自主性や主体性を育む教育を実践している。	→A 96.7 %
設問 3 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	→A 96.3 %
設問 4 附属小学校は、楽しく学べる授業づくりの工夫がされている。	→A 93.9 %
設問 6 朝の会のスピーチによって、子どもたちに「聞く・話す」力が育っている。	→A 90.9 %
設問 7 学校給食は、安全面、栄養バランス、味などの工夫がされている。	→A 92.9 %

本校の自主性や主体性を重視した教育に対し理解をし、誇りにしていることがわかる。また、工夫した授業づくりや給食の内容において満足している。

【C・Dと評価した項目】

設問 7 あおいタイムや授業によって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っ	
--	--

	ている。	→D 67.8 %
設問 10	コンピュータの使い方をていねいに指導している。	→D 38.0 %
設問 16	子どもは、そうじがよくできる。	→C 55.7 %
設問 17	子どもが安全に楽しく生活できるように、学校設備や教室環境が整えられている。	→C 67.7 %

本校の授業については高い評価であるが、基礎的な知識や技能の習得・コンピュータ利用については評価がまだ低い。清掃については、今年度の初めての調査である。子どもの意識と差があり、学校と家庭とで協力し取り組むようにしたい。

(5) 3者間の比較

ア 教師と児童の間に10%以上意識の差が見られる項目

7	・あおいタイムや授業によって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っている。(教師)	D 59.1 %
	・あおいタイムや授業によって、読み・書き・計算など基本的なことが身についてきた。(児童)	A 88.3 %

10	・コンピュータの使い方をていねいに指導している。(教師)	D 9.1 %
	・先生は、コンピュータの使い方をていねいに教えてくれる。(児童)	D 43.7 %

11	・学校給食は、安全面、栄養バランス、味などの工夫がされている。(教師)	B 77.3 %
	・給食は、おいしいし安心して食べられる。(児童)	A 87.6 %

12	・配膳、会食、片づけを通して、給食指導をていねいに行っている。(教師)	C 63.6 %
	・先生は、給食の食べ方や過ごし方をていねいに教えてくれる。(児童)	A 80.6 %

13	・子どもの病気やけがなど、健康・安全面に配慮するとともに、常に細心の注意をはらっている。(教師)	A 90.9 %
	・体の調子が悪いときやけがをしたときなど、先生はすぐに気づいて声をかけてくれる。(児童)	B 78.0 %

- 14 ・あいさつ，時間を守る，物を大切にすることなどの基本的な生活習慣が身につけている。(教師) C 59.1 %
 ・あいさつ，時間を守る，物を大切にすることができるようになった。(児童) A 90.6 %

- 16 ・そうじ時間中に見まわる，共にそうじに取り組むなど，清掃指導ができてい
 る。(教師) B 77.3 %
 ・そうじにまじめに取り組むことができる。(児童) A 87.9 %

- 18 ・ホームページ，学年・学級だよりなどで，校内のできごとをよく保護者に知
 らせている。(教師) B 77.3 %
 ・先生は，学年・学級だよりをよく出してくれる。(児童) B 89.9 %

- 19 ・附属小学校は，子どもの命や安全を守るため常に危機管理意識をもって指導
 している。(教師) B 68.2 %
 ・先生は，安心して学校へ通えるように守ってくれたり，安全について教えて
 くれる。(児童) B 88.7 %

イ 教師と保護者の間に10%以上意識の差が見られる項目

- 10 ・コンピュータの使い方をていねいに指導している。(教師) D 9.1 %
 ・学校は，コンピュータの使い方をていねいに教えている。(保護者) D 38.0 %

- 11 ・学校給食は，安全面，栄養バランス，味などの工夫がされている。
 (教師) B 77.3 %
 (保護者) A 92.9 %

- 14 ・あいさつ，時間を守る，物を大切にすることなどの基本的な生活習慣が身につい
 てる。(教師) C 59.1 %

・子どもは、あいさつ、時間を守る、物を大切にするなど、基本的な生活習慣が身についている。(保護者) B 70.6%

16 ・そうじ時間中に見まわる、共にそうじに取り組むなど、清掃指導ができてい
る。(教師) B 77.3 %
・子どもは、そうじがよくできる。(保護者) C 55.7 %

19 ・附属小学校は、子どもの命や安全を守るため常に危機管理意識をもって指導
している。(教師) B 68.2 %
・子どもが安心・安全に通うことができる学校である。(保護者)
A 86.2 %

(6) 成果と課題

ア 今年度も「附属小学校は誇れる学校である」「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」などの意識が、教師・保護者・児童ともに高いことは誇らしいことである。この結果から、学校運営がおおむね良好に進められていることがいえる。さらに、設問1から4に関して、子どもの評価が昨年よりも上がっている。これは、学校の教育活動がより充実してきている一つの成果といえよう。今後も学校評価をもとにしながら、学校がリーダーシップをとり、子どもと保護者の意見に耳を傾け、学校運営をしていきたい。

イ 昨年度の改善項目であった「授業づくりを見直すとともに、基礎的な知識や技能の習得を図る。」「子どもたちがルールやマナーを守り安全で、気持ちのよい生活環境を整える。」「家庭、地域に学校の様子や状況について積極的に情報提供していく。」について、コンピュータの活用を除いてほぼ達成された点は大きな成果である。特に、「家庭、地域に学校の様子や状況について積極的に情報を提供していく。」では、保護者の回答で評価が85%を超えた。今回設問20で内容を「学校評価をもとにした点検」といった視点を加え、「開かれた信頼できる学校運営をめざしているか」という設問を行ったが、ここでも保護者の回答は85%以上のA評価を得た。これらは、各種たより・ホームページの充実、学校公開日・学校評価の新設により、こうした結果を得たと考える。今後も情報をできるだけ発信し、学校評価を活用することで、地域・保護者の信頼を得ていきたい。

ウ コンピュータの活用については、昨年度と変わらず低い評価である。情報教育が今後期待される教育の一つであることを考えると、本校の課題といえる。コンピュータの活用があまり進まない現状の一つは、アンケートの実施が1学期末に取るため、研究会がある1学期ではなかなかその時間が取れないことにある。実際の授業では、中高学年の調べ学習で、コンピュータを活用する場面は多々あるが、図書資料も調べ資

料の一つであり、一人一人の必要とする調べ方法で調べる授業の多いことが現実である。中高学年ともなると活用力の個人差が大きい、それゆえにコンピュータ活用の時間を全体で取り、一人一人の能力をとらえて指導する必要がある。2学期以降に活用する時間をもつ等対策を立てていきたい。

エ 今回、昨年度の「子どもたちがルールやマナーを守り、安全で気持ちのよい生活環境を整える。」をより具体化し、設問 14「子どもは、あいさつ、時間を守る、物を大切にするなど、基本的な生活習慣が身についている。」設問 15「子どもは、社会のルールやマナーなど規範意識が育っている。」を設定した。この結果をみると、児童の意識としてはよくできているように感じているようだが、保護者の満足度は、どちらも 70 % 台である。また、設問 16「子どもは、そうじがよくできる」に及んでは、保護者の意識が 50 % 台まで落ちることから、清掃指導について課題がある。基本的な生活習慣を振り返る機会をもつなどし、意識的に指導していく必要があろう。

オ 設問 7 以降学校側が主として指導したり教育活動したりする項目で、教師の自己評価が低い状況にある。これは、指導がまだ十分できていないと考える反省的な自己評価として自覚されているととらえる。こうした教員の意識を大切に、評価の低かった項目を明らかにし共有することで、附属小学校の教育活動を改善していきたい。

(7) 改善策

基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組を充実させる。	
目標値	<p>設問 6 基礎的な知識・技能の定着を図っている。</p> <p>教師 C 59.1 % → B 70 %</p> <p>保護者 C 67.8 % → B 75 %</p> <p>設問 10 コンピュータの使い方をていねいに教えてくれる。</p> <p>教師 D 9.1 % → C 50 %</p> <p>保護者 D 38.0 % → C 50 %</p> <p>児童 D 43.7 % → C 55 %</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するよう努める。 ・本校の研究成果を披露する授業のみならず、あおいタイムや基礎的な知識・技能を定着させる授業も学校公開日等で公開する。 ・全国学力状況調査で良い結果が出ていることを保護者会の場で説明する。 ・コンピュータをひとり調べで活用するだけでなく、一斉指導のなかで活用する場をもつ。 ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。

子どもたちの基本的な生活習慣と規範意識を育む。	
目標値	<p>設問 12 食べ方指導，栄養指導など，給食指導をていねいにしている。</p> <p>教師 C 63.6% → B 75%</p> <p>保護者 B 73.1% → A 80%</p> <p>設問 14 あいさつ，時間を守る，物を大切にするなど，基本的な生活習慣が身についている。</p> <p>教師 C 59.1% → B 70%</p> <p>保護者 B 70.6% → A 80%</p> <p>設問 15 子どもは，社会のルールやマナーなど規範意識が育っている。</p> <p>保護者 B 75.0% → A 80%</p> <p>設問 16 子どもは，そうじがよくできる。</p> <p>教師 B 77.3% → A 85%</p> <p>保護者 C 55.7% → B 70%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間に栄養士を中心とした食べ方指導栄養指導を行う。 ・学級や児童会活動で，基本的な生活習慣や規範意識について振り返る場をもち，一人一人がめあてをもって行動できるようにする。 ・PTAと協力しながら，生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと，清掃活動に積極的に取り組む態度を培う。 ・登下校指導を行い，あいさつの励行や登下校時におけるバスマナーなど，子どもたちの生活のなかでルールやマナーについて考える機会をとらえ，学級活動や通学班会の場で継続的に指導していく。

子どもたちの安全のために，学校設備や教室環境を整える。	
目標値	<p>設問 17 安全に楽しく生活できるように，学校設備や教室環境が整えられている。</p> <p>教師 B 72.7% → A 80%</p> <p>保護者 C 67.7% → B 75%</p> <p>児童 C 68.2% → B 75%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会や職員会の場で，学校設備や教室環境の点検を行い，優先順位を付け，大学に要望していく。 ・学期末に行う学校設備等の環境点検を念入りに行う。